

子宮がん検診（車検診）

動 向

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村からの委託事業として当協会が配車し、細胞診断と結果広告を担当している。検診は県下の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院の産婦人科の医師が担当し、この5大学と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」で、精度管理・向上に努めている。

細胞診判定法が平成21年度よりベセスダシステム準拠産婦科医会分類に改定された。採取器具も平成23年4月より綿棒からCervex-Brush Combiに変更した。

子宮頸がん検診結果

検診実施数は22,228名で、昨年度より1,400名強減少した。年齢階級別では、やはり60歳代が最も多く、次いで40歳代、70歳代以上と50歳代の順で、高齢者に多かった。期待された30歳未満の受診者は昨年より少ない624名、2.8%だった。40歳未満では15.1%と昨年の18.0%に比べ少なかった。一方、初診者（初めての検診受診者、6,480名）は29.2%を占め、昨年と同等だった。うち若年者の割合は30歳未満7.6%、30歳代22.2%で、昨年より少し低下した。

要再検・精検率では、細胞診LSIL以上（旧分類クラスIIIa以上）の要精検者は0.45%（101名）、ASC-US（クラスII再検）などによる要再検者は0.93%（207名）だった。昨年ではそれぞれ0.46%、0.94%だった。両者合わせた要再検・精検率は1.39%で、昨年の1.41%と同水準だった。再・精検の実施率は平成28年8月末の集計時点で79.87%、うち精検者76.24%、再検者81.64%だった。一昨年度から特に精検実施率は低下傾向にある。

要再検・精検者の再検・精検結果は表4～6の如くである。発見癌のうち頸癌は13例（上皮内癌9例、上皮内腺癌1例、Ia期2例、腺癌I期以上1例）で、早期癌の頻度は92.3%と高かった。頸癌発見率は0.06%と例年の0.07%をやや下回った。初診者からの頸がん発見率は0.12%と高く、一方、再診者（検診受診経験者）のそれは0.03%と低いことには変わりがない。頸癌のうち上皮内癌1例が要再検群から発見されている。初診者での癌発見率では、最も高い発見率が近年では40歳代から30歳代に若年化し0.21%と高かった。初診者の多い30～49歳の若年者で高い頸がん発見率であることには変わりがない。なお、再診者の中では、30～69歳代に広く分布

している。

発見された異形成は90例（軽度52例、中等度27例、高度11例）である。異形成発見率は0.17%で、昨年の0.38%より低かった。初診者の、異形成の発見率は0.34%と一層高く、年齢階級別では30歳未満0.61%、30歳代0.69%、40歳代0.37%を示し、若年初診者に高かった。しかし、60歳代でも0.09%を示していた。再診者からも、異形成は0.10%の高頻度で発見され、とりわけ30、40歳代ではそれぞれ0.39%、0.28%と高い頻度だった。さらに年長者でも発見されている。繰り返し受診者であっても異形成の発見頻度は低いことを銘記していきたい。

細胞診判定ASC-USのため要再検となった者207名から、上皮内癌が1例（発見率0.5%）、異形成が14例（6.8%）（軽度11例、中等度3例）が発見されている。

頸癌以外では、本年度は体癌IA期が発見された。

評 価

本年度の検診で、出血のため緊急搬送した例が1例経験された。細胞診断で腺癌疑い例であったが、その後の経過について追跡調査中である。今後の管理体制の向上に努めたい。

若年者の受診は期待に反して伸び悩んでいた。20、30歳代の若年者では異形成や頸癌の発見率が高いところから、若年者の検診受診が一層勧奨される。

これまで一次検診を担当した県下各大学に誘導することによって、要再検・精検実施率の高い実績を誇っていたが、本年度は低かった。改善に努めたい。

子宮頸癌ならびに異形成の発見率は初診者に高いことはこれまでの統計通りであり、未受診者への受診勧奨に一層努めたい。一方、再診者での癌発見率は著しく低下するものの、異形成の発見率は0.1%と高頻度を示していることから、再診者へも定期的な検診受診の継続が勧奨される。

子宮がん検診無料クーポン券は、若年者での検診受診の掘り起こしと高い頻度の癌や異形成の発見に貢献していたが、本年度は少し低下していた。一層の勧奨が必要であろう。

細胞診報告様式であるベセスダシステム準拠日本産婦人科医会分類は順調に普及しているが、新基準であるASC-USにより要再検の頻度が上昇している。頸癌原因ウイルスHPVを考慮した結果であろう。

液状処理細胞診（LBC）の導入が待たれる。

関係の集計表は92頁に掲載